

輩～TOMOGARA～

令和5(2023)年度 明石市立大久保北中学校生徒指導通信4月号

進級・入学おめでとうございます～新たな1年のスタートです「さあいこう！」～

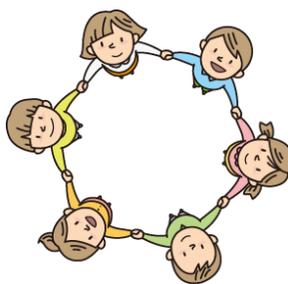
新しい学年をどのような気持ちで迎えていますか。誰であっても、新しいスタートはきゅつと心が引き締まるものです。3月末に日本中が熱狂したWBCのアメリカとの決勝戦前、大谷選手がロッカールームで声出しを行いました。

「僕からは一個だけ、憧れるのをやめましょう。憧れてしまっただけでは超えられないので、僕らは今日超えるために、トップになるために来たので。今日一日だけは彼らへの憧れを捨てて、勝つことだけを考えていきましょう。さあ、行こう！」

世界トップレベルの選手であっても憧れを持ち、その目標に向かって日々の努力を積み重ねています。新入生にとっては、2、3年生はとても頼りになる先輩であり、憧れの存在となると思います。先輩としてカッコいい背中を見せられるように！

さて、この生徒指導通信は「輩(ともがら)」というタイトルです。「輩」には「仲間」という意味が込められています。また、「ともがら」は異なる漢字で「徒」と書くこともできます。徒然草という古典の中に「舜を学ぶは、舜の徒(ともがら)なり」という一文があります。「舜」というのは、古代の徳の高い王様のことを指し、「賢人の行いを学ぼうとすることが、賢人の仲間になる」という意があります。このTOMOGARAを通じて、みんながつながり、より良い学校生活を送ることができるようになってほしいと思います。さあ行こう！

- ◎時間を大切にしよう！
- ◎あいさつを大切にしよう！
- ◎環境・物を大切にしよう！
- ◎友達・仲間を大切にしよう！
- ◎自分自身を大切にしよう！



4月の月間目標

**ルールを守って規則正しい生活を
笑顔であいさつをしよう**

生活
笑顔

新しい環境での生活に慣れるまで時間がかかる人もいますが、基本的な生活リズムや服装など、スタートだからこそきちんと正していきましょう。あいさつは北中の伝統です。登校時や教室でもしっかりとできている人が多いですが、そこに笑顔を足すことでよりお互いに良い関係を築けます。

泣き婆さん

京都に南禅寺というお寺があります。その門前に“泣き婆さん”と呼ばれる女性がいた。彼女は、雨が降れば降ったで泣き、天気が良ければ良いで泣く。雨でも晴れでもいつでも泣いていた。和尚が不審に思い、「なぜ、泣くのか」と尋ねた。



すると、婆さんは

「私には息子が二人おります。一人は草履屋を、もう一人は傘屋をやっております。天気がいいと、傘が売れないのでかわいそうで…。雨が降ると草履が売れないので困っているだろうと思って、泣くまいと思っても泣かずにはいられません。」

そこで和尚は「なるほど、話を聞けばもっともであるが、その考えは下手じゃ。わしがひとつ、一生うれしく有り難く暮らせる方法を教えよう」とおっしゃった。婆さんはひざを乗り出して、「そんな結構なことがありますなら、是非ともお聞かせください」と言った。

和尚は次のような話をした。

「世の中の禍福はあざなえる縄の如しというて、福と禍とは必ず相伴うものである。世の中は幸福ばかりが続くものでなく、かといって不幸せが続くものでもない。お前は不幸せな方ばかりを考えて、幸せの方をいっこうに考えないから、いつも泣いていることになる。

天気のいい日は草履屋の息子は繁盛しており、雨の降る日には傘が飛ぶように売れていると思うが良い。こう考えれば、晴れば晴れたで嬉し、雨が降れば降ったで嬉しいであろう」

**あなたにとっての「良い」は、誰かの「悪い」かもしれない
色んな人の立場を考えられる人に。**

【校則について】

新しい生活について

昨年度より検討してきた新しい校則の運用がスタートします。まずは6月の生徒総会までの試行期間です。誰かが困ったり、生活に支障が出る場合は再び検討することもあるので、生徒自身で考え、守っていき、みんなにとっていい学校を作っていきましょう。

ルール

【プレハブ棟について】

今年度から運動場にプレハブ教室が設置され、今年は新3年生6クラスがプレハブ教室を使用します。本校舎との行き来については、上靴のままプレハブの北側入り口から白線の内側を歩いて本校舎の方に移動しましょう。生徒玄関の中央に泥落とし用のマットがあるので、土をそこで落とすようにしましょう。他学年についてはプレハブへ立ち入ることはありません。

【南門について】

全校生徒が800人弱の大規模校となり、登下校の危険もあるため、登下校時に南門を開門します。学校の南から登校する生徒は、南門より入って構いません。ただし、8時15分には締め切るため、遅れてくる場合は正門から入るようにしましょう。

【服装について】

全体としての衣替えなどは行いませんが、4月は儀式・行事も多いため、個人の体調に合わせて「冬服」を基本として生活を送りましょう。